

親鸞さまの

【本文】

みだちがん こうかい
弥陀智願の広海に

ぼんぶぜんあく しんすい
凡夫善 悪の心 水も

きにゅう
帰 入しぬればすなはちに

だいひしん てん
大悲心とぞ転ずなる

【意識】

阿弥陀様の願い、救いの願いの広き海に、

人間の賢しらな取捨分別の心水が、

注ぎ合わさることによって、潮の味一つになっていくのです。

自分の行く末が分からず、いたずらに善悪を論じて自らを誇るような私
が、全ての人が救われていく世界の中
に摂(おさ)め取られていくのです。
海の、阿弥陀様のお陰です。

【私の味わい】

私事で恐縮ですが、先日見た夢の話をしようと思います。

夢というものは、ふわふわとした感触がありつつも、どこかしらとても現実的に思える時があります。その中で、私は父親でした。子供が何らかの病で命が長くないことを知ります。私は居ても立つてもらえませんが、なるべく平静を装い子供と時間を過ごします。子供が過ごしたいことを、過ごしたいようにさせる。それでいいのだと思いましたが、しかし、これだけはやっぱり伝えたいことがありました。それは、他でもない阿弥陀様のお陰でお浄土に往かせてもらえる、また会おうなということでした。涙を流し、声にならない声を上げたその時に目が覚めた、そんな朝でした。

夢から現実に戻って、夢だったとほっと安心しました。と同時に大切なものを出来るだけ丁寧に大切にしたいな、と思いました。それは大切にしていけない自分に気が付いたからでした。限られた時間を限られたものとして受け止めたいな、と思いました。それは、限られているという事実を、おろそかにしている自分に気が付いたからです。

そして、南無阿弥陀仏をますます聞き称(とな)えさせて頂きたい、と思いました。南無阿弥陀仏は、私と家族と、そして全ての人とその家族の行く末を支え下さる仏様のお心だと改めて気が付いたからです。

これは、私が殊勝だから気が付いたのか。いや、全て阿弥陀様のお陰です。